

関連イベント in 奄美

企画特別展に関連し、奄美で3つのイベントを実施しました。

ワークショップ

「わきゃ海の恵みについて知ろう」

令和3年5月14日 県立大島養護学校

奄美の海や私たちと海の関わりについて学習しました。また、近くの浜辺で拾い集めたサンゴを使って、ペン立てを作りました。



当日はインターネット映像で沖永良部島と喜界島の特別支援教室ともつなぎ、一緒に学習しました。

サンゴを積み重ね、シーグラスや貝殻で装飾していきます。



作品の写真は黎明館に展示されました。

講座

ほこらしゃ奄美 in 瀬戸内「海の民俗を語る」

令和3年7月11日 瀬戸内町立図書館・郷土館

久伸博氏、渡聡子氏、水野康次郎氏、町健次郎氏、小野恭一の5人の講師が、それぞれ「南島雑話」を素材とした近世の海の利用、焼内湾の海辺で行われる待網漁や旧暦三月三日の伝統行事、大島海峡周辺のイザリ漁やカキ漁(石千見)の過去と現在、海岸風景にまつわる伝承とその背景、イカエギから見た文化の伝播と鹿児島・奄美のつながりについて紹介しました。参加者は、奄美の海と人々の生活について学びました。



講座当日は展示解説も行いました。



瀬戸内町立図書館・郷土館と連携したミニ企画展「魚のだまし方いろいろ-鹿児島島の鯛木文化-」に、当館の民俗資料を出品。



出前講座

「海を渡った疑似餌」

令和3年7月13日 県立古仁屋高等学校

疑似餌を素材に、地域の海の利用や先人の知恵を学びました。



イカエギ(黎明館蔵)



学芸員から資料の扱い方を学び、明治時代に使われたイカエギを手にとって観察しました。

余暇にイカ釣りを楽しんでいる生徒も多く、イカエギの歴史や成り立ちを学ぶ中で、奄美の海を利用してきた先人の知恵が、現代につながっていることに驚く様子も見られました。生徒たちは実物資料や写真を比較し、仮説を立てながら、県内各地のイカエギの特徴や変遷を確認し、地域ごとの文化の共通性や違いについても考えました。



夏の活動報告

令和3年7月25日 薩摩焼をつくろう

小学4年生から中学生を対象とした体験講座。同伴の保護者も陶芸体験ができることあって、毎年人気の講座です。

講師の琴鳴堂 四元先生の指導のもと、「どんな形にしよう」「犬の絵を描きたい」など自由に作成をしていました。



令和3年8月4日 インターンシップ



資料の採寸や、展示替えの作業を行いました。貴重な作品の前に緊張した面持ちでしたが、学芸員の指導のもと、丁寧に作業を行っていました。

令和3年8月5日・6日 エンジョイ黎明館



教職員を対象とした研修「エンジョイ黎明館」では、鹿児島の歴史や、学校教育での黎明館の活用法などを学びます。「伝える側(教える側)の学びの大切さを再認識することができた」と好評でした。

令和3年8月18日～25日 博物館実習

学芸員になることを目指す大学生を迎えて、鹿児島の歴史・文化に対する理解と認識を深めたり、資料の展示や保管の知識を得たり、施設利用者への対応などを学びます。

今年度の実習では、展示場での展示替え、資料をデータベース化するための写真撮影、計測、資料名付けなどの目録作成等の演習を行いました。また、休室中の常設展示を利用した模擬イベント(子ども向けイベントを想定)では、参加者役の展示解説員を相手に、解説を行いました。

